

第2回成田空港緊急戦略プロジェクト会議 議事概要

- 1 日 時 平成22年1月27日（水）午後2時～4時
- 2 場 所 ポートプラザ千葉 2階 ロイヤル
- 3 出席者 出席者名簿のとおり
- 4 会議概要

(1) 森田知事あいさつ

先月25日に「成田空港に関する四者協議会」が開催され、国交省から30万回時における標準飛行コースが示されると共に、同時離着陸方式の採用、運用制限の緩和などについて、また、NAAからは予測騒音コンターの概要や、環境対策・地域共生策の基本的な考え方、空港容量拡大に向け施設整備について説明があり、四者による協議を行った。その結果、地域への丁寧な説明を前提に、空港機能の拡充案が基本的に了承された。県としても、30万回の実現に向けスピード感をもちつつも、地域へのきめ細かい丁寧な説明を心がけ、地元の理解・合意が得られるよう、関係者と協力のう え努力してまいりたい。

このような成田空港がパワーアップする動きが加速する中で、第1回会議では示唆に富む意見をたくさん頂戴した。本日も委員の皆様からプレゼンをしていただき、ご提案をいただき、その後意見交換させていただきたい。

(2) 委員意見発表

委員から、以下のとおり成田空港の活性化案などについて提案・意見発表があった。

①アイベックスエアラインズ株式会社（服部委員）

- ・国内フィーダー線の充実が競争力の強化に貢献すると考える。
- ・小型機による国内フィーダー便が抱える主な課題（使用可能な国内線枠の不足、公租公課負担、小型機スポットと滑走路の距離が長い等）
- ・課題解決策（国内線発着枠の拡大、小型機運航に対する支援の実施、国内フィーダー便のPRと空席対策）

②千葉県商工会議所連合会（千葉委員）

- ・県内の経済に関する民間団体で、「千葉力創造研究会」を立ち上げ、社会資本については、分科会を設けて、鉄道・道路・港湾・空港等の社会インフラについての提言をまとめた。
- ・空港の効率性を考えたときに、成田羽田を結ぶ鉄道、道路等今ある交通の手段を更に効率化していくということを考えなければいけない。空港内においてもイミグレーションの迅速化も必要。

- ・空港や港湾、これを結びつけるインフラとしての道路、鉄道を総合的に全般にとりまとめるということを視野において空港の問題を考えていく姿勢が大事。

③日本旅行業協会関東支部（野口委員）

- ・渡航者の傾向はシニア層がマーケットを引っばっている。逆に若者が減っている。
- ・訪日外国人はアジアの方が7割を占め、訪日動機は、ショッピング・日本食・温泉がキーワード。
- ・空港利用促進のための方策の提案（アクセス時間の改善・利用者のコスト負担の軽減、シニアに優しい空港設備に改善、駐車場・高速道路料金等の負担軽減、CSアップの取り組み、空港をエンターテインメントの場所にする近隣住民が楽しめる空港づくり、空港周辺地域の活性化、修学旅行の誘引など若年層を対象とした観光促進、国際会議の誘致促進等）

④成田市（小泉委員）

- ・首都圏の空港利用者に今後も成田空港を使っていただけるための緊急戦略（成田新高速鉄道開通という武器を使い関係者一体となった徹底的な情報発信、リピーターを増やす取り組み、幹線道路網の整備と自動車利用利便の向上等）
- ・成田空港の魅力を更に高めるために、空港周辺地域の機能充実に向けた戦略（空港を中心とした観光圏づくり、企業立地促進のための優遇措置・誘致戦略、空港周辺地域の将来ビジョンの実現等）

⑤多古町（菅澤委員）

- ・圏央道と国道296との交差点付近にパーク&バスライドの設置
- ・パーク&バスライドの活用（東総地域住民のアクセス改善、空港周辺道路の交通円滑化、空港の駐車場機能の補完、東総地域観光の促進）

⑥芝山町（相川委員）

- ・県や市町の観光パンフレットを作成し、飛行機の座席備え付け4ヶ国語でPR
- ・空港を観光資源と位置づけて活用
- ・カーフェリーの緩和や平行滑走路の延伸などで空港のクオリティを上げることにより、空港のポテンシャル・可能性を広げる。
- ・空港のクオリティ向上には、騒音下住民の理解が不可欠であり、空港のマイナス影響を可能な限り改善し、空港のもっている活力を最大限活かす視点が重要。

(3) 有識者意見発表

(株)アテナインテリジェンスの山田代表取締役から、配付資料に基づき説明。

- ・成田はインバウンドのハブであり、成田と結ばれている他の国内拠点と地域間の連携を構築し、インバウンド観光を促進するということが考えられる。
- ・また、成田空港周辺地域での地域内連携も強化し、外客に配慮した環境づくりや連

合体を作って適時に情報提供を積極的に行うことも必要。

- ・地域内連携の事業として、例えば、首都圏在住の外国人を空港の飛行機整備工場に招いて、周辺地域で昼食をとってもらうプラン等を実行してはどうか。

(4) 第1回会議の提案・意見の整理

事務局長坂本副知事から、配付資料に基づき、緊急提言に向けた提案の整理方針について説明。

(5) 意見交換

※意見交換の前に、報告事項として、NAAから「空港容量拡大に向けた施設整備について」説明。

以下意見交換。

(東京空港交通)

- ・PRについて、バスについても成田・羽田両空港間を早ければ50分強程度で結ばれているので、その点も触れていただきたい。
- ・空港内だけでなく、羽田と成田間の乗り継ぎ客の移動時における手荷物の煩わしさの改善にも触れていただきたい。
- ・行き先方面別にバスターミナルを整理するというのは、空港ではお客様が事前に発券カウンターで案内を受ける仕組みになっており、直接バス停に行ってバスを探すことはほとんどないので、旅客利便性の観点からはあまり効果がなく、限りあるバス停を目一杯効率的に運用している現状も鑑みると、必要性も低いと思う。

(全日空)

- ・成田の価値を高めるためには、旅客利便性のいいダイヤを設定するということにつきると思う。羽田に負けない成田にするために重要なのは、利便性の高いダイヤを設定するための時間あたりの発着枠の拡大である。

(以上)